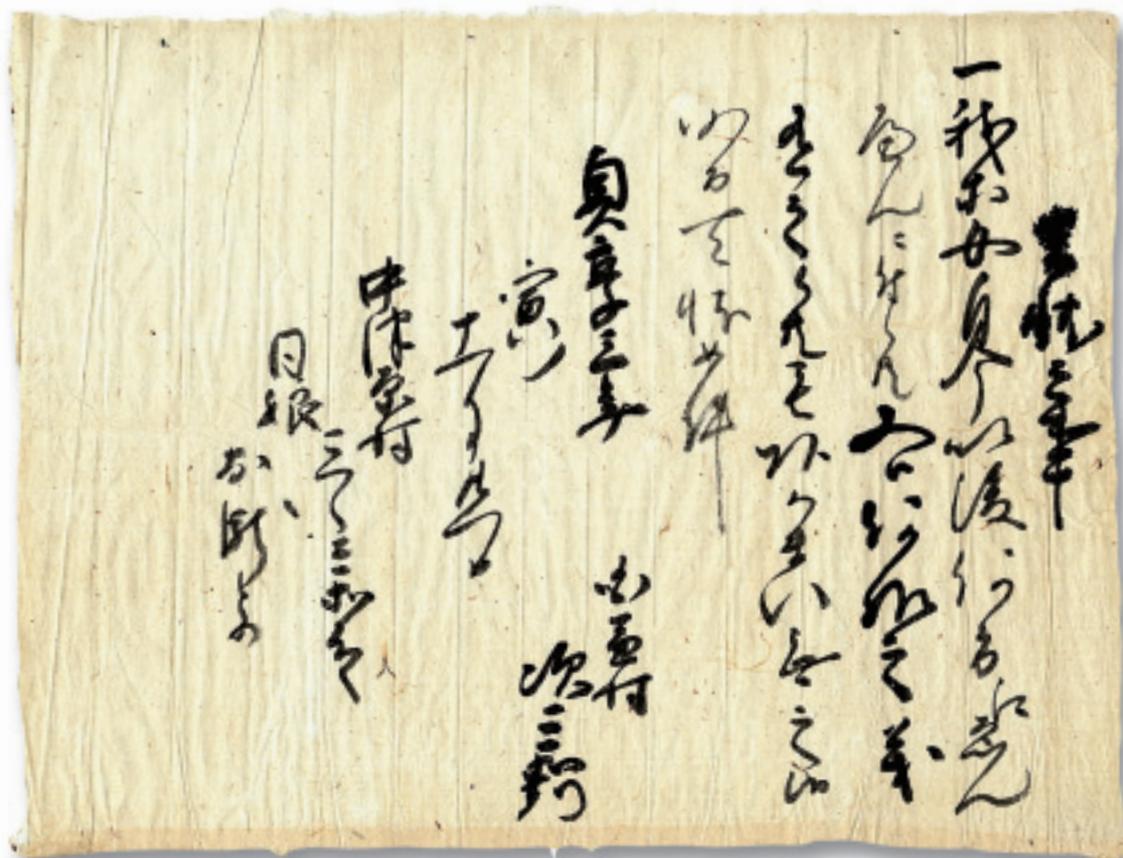


文書館だより

Fukui Prefectural Archives



▲「去状之事」(玉村九兵衛家文書D0075-00171 当館寄託)

第12号目次

特集「おしえて 少女歌劇」.....	2
資料紹介	3
ちょっと昔の福井県	5
企画展示・収蔵資料展示	6
お知らせ	8

第12号

2008.10

福井県文書館

◆◆◆ 特集 ◆◆◆

「おしえて 少女歌劇」 — 県民参加型の展示をめざして —

文書館では、5月に「だるま屋少女歌劇—プログラムとプロマイド」展を開催しました。県民参加型の展示をめざし、ホームページやポスターで「だるま屋少女歌劇」の情報の提供を呼びかけました。県民のみなさまから多くの情報を寄せていただきありがとうございました。



展示資料紹介講座



少女歌劇について
語り合う来館者

「おしえて 少女歌劇」によせられた県民からの情報

- 私の母は劇団員の一人でした。子供の頃から折にふれて話を聞いていたので、とても懐かしく、子供の頃がよみがえりました。我が家にもたくさん写真がありました。空襲で焼かれてしまいました。(女性59歳)
- 昭和9年にだるま屋に入店しましたが、店員のために月1回時間外の公演がありました。日曜日には鯖江連隊の兵隊さんが、すずなりになって買い物に来ていました。(女性90歳)
- 団員の霞浦子さんは、劇団に通うのに観音町商店街を通っていました。そのころの観音町商店街は道幅が狭く、荷車が通れるほどでした。霞さんは皆が振り返るほど綺麗でした。(女性83歳)
- 父が楽団員で、舞台の合間にオーケストラボックスの父に会いに行きました。合唱団もいたと思います。舞台の最後には、だるま屋の歌を全員で歌っていました。(女性80歳)
- 少女歌劇の観劇は唯一の楽しみでした。当時の入場料は確か20銭でした。歌劇は昭和11年に閉鎖され、その跡はプールに改造されたと思います。(男性86歳)

■ だるま屋少女歌劇とは

だるま屋は、80年前の昭和3年、福井駅前の県庁跡地に開店した県内初の百貨店です。だるま屋少女歌劇は、だるま屋の別館「コドモの国」がオープンした際に、その専属としておかれたもので、昭和6年に第1回公演が行われました。県内出身の少女たち約30名が在籍し、月ごとにプログラムをかえながら昭和11年まで公演を行っていました。



新春のヴァライティ・フィナーレ“青春の歌”



だるま屋別館 コドモの国

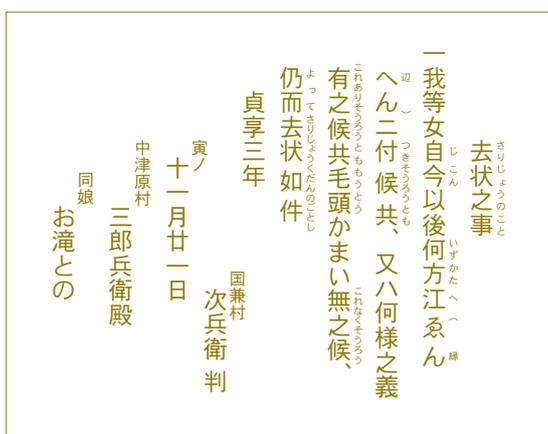
◆◆ 資料紹介 1 ◆◆

最も古い「三くだり半」が文書館に！

離縁状は、江戸時代に庶民が離婚する時、夫から妻（または妻の父兄）へ交付した文書です。これを授受することによってお互いに再婚することができました。

これまで約1000通の離縁状を研究されてきた高木侃氏（専修大学法学部教授、日本法制史）によれば、玉村九兵衛家の離縁状（当館寄託）には、従来最も古いとされた1696年（元禄9）のものからさらに10年さかのぼる1686年（貞享3）の日付があり、最も古いと考えられるということです。

そこで、文書館では、この離縁状を展示し、さらに高木氏に「三くだり半の世界—福井県の事例から」という演題で講演していただきました。この最も古いとされる資料を紹介します。



▲ 玉村九兵衛家文書D0075-00171 (当館寄託)

玉村九兵衛家 1646年（正保3）には米ノ浦の庄屋役をつとめたことが確認できる旧家で、その後も代々村役をつとめました。米ノ浦は越前海岸の南部に位置する漁村で、古くは干飯浦と称しました。

県史講座「三くだり半の世界—福井県の事例から」

■ 高木氏の講演より

今年の春に福井県文書館へ調査に行き、1686年（貞享3）の離縁状を発見しました。これが、最古の離縁状であるとともに最古の三行半でもあります。

いままで最古とされた1696年（元禄9）8月3日のものより、さらに10年古いものです。表題が「去状之事」とあり、行数が三行半など、後世の離縁状の体裁が整っています。

京都で1684年刊行とされる用文章『願学文章』にすでに離縁状の雛型がありますが、これら関西文化の影響と考えられる離縁状が京都ではなく福井で発見されました。この時期に一般的な離縁状・離別状・去状などの離縁状書式が定着していたといえそうで、三行半に書く習慣も関西から関東へ伝えられたと考えられます。



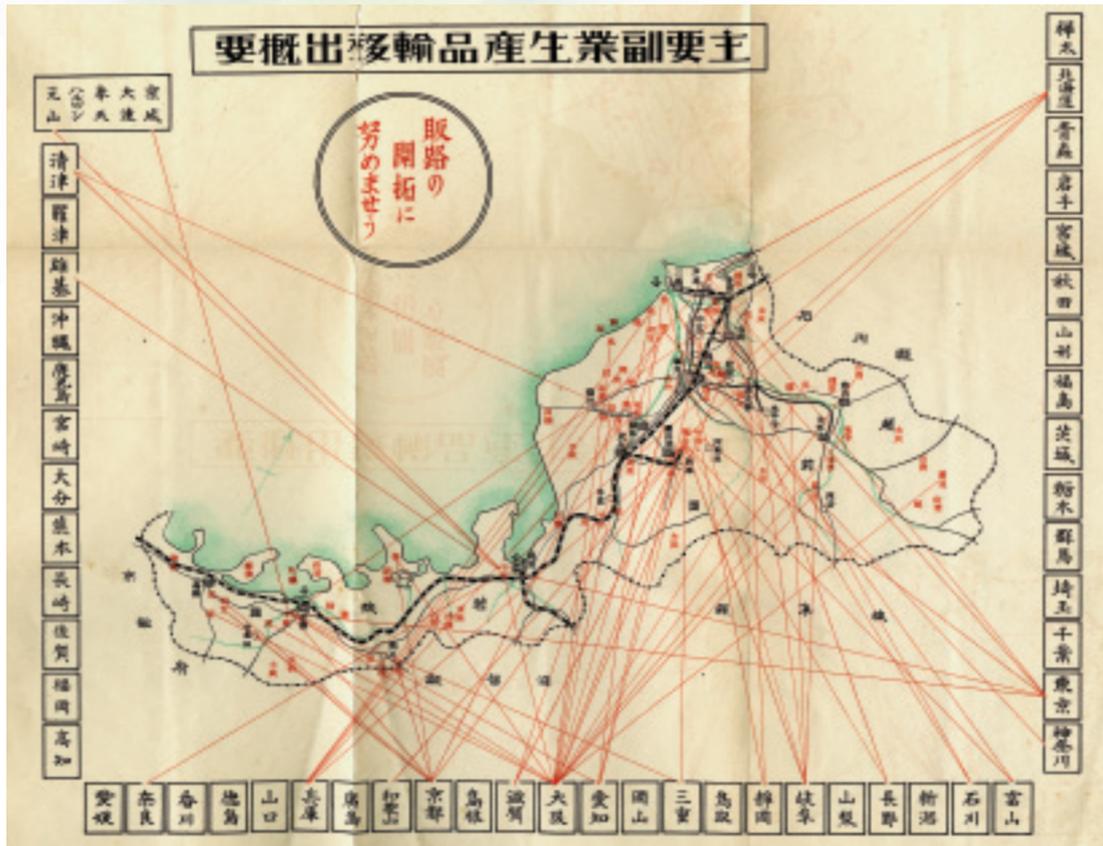
高木 侃氏



県史講座

◆◆ 資料紹介 2 ◆◆

主要副業生産品輸移出概要



この図は、昭和9年8月に福井県が発行した『副業の葉』^{しおり}に掲載されているもので、平成18年度に当館が農業試験場から受け入れた行政刊行物の中に含まれています。図の中には、県内各地で産する「煙草」「花卉」「蔬菜」等の主要副業生産品が朱字で記されているほか、県外への販路が周囲に記された県名等に朱線で示されています。これによれば、大阪、京都、兵庫、岐阜、愛知、東京、北海道などに販路があった一方、まったく朱線が引かれていない県もあり、販路の状況が一目でわかる図です。

注目すべきは、海外にも副業生産品が輸出されていたことです。京城、元山、清津、雄基には販路を示す朱線が引かれており、特に敦賀の干蕨^{ほしむしろ}が遠く清津や雄基など中国大陆や朝鮮半島に輸出されていたことがうかがえます。

福井県は、戦前から米単作地帯でしたが、本業である米作のほかさまざまな副業を行っていました。『副業の葉』によれば、県内の農山漁村の家の総収入の2割5分は副業収入であったと記しています。副業関係の組合は六条村製縄組合をはじめ127を数え、昭和9年調べによる副業生産品は総額で7,948,472円に及ぶものでした。

この図に記された「販路の開拓に努めませう」というスローガンのように、昭和恐慌の大不況からの立ち直りをめざして、県内の農山漁村が副業生産による新たな希望を見出そうと努力していた姿がほうふつとされます。



▲『副業の葉』 40003156

◆◆ 文書館所蔵写真紹介 ◆◆

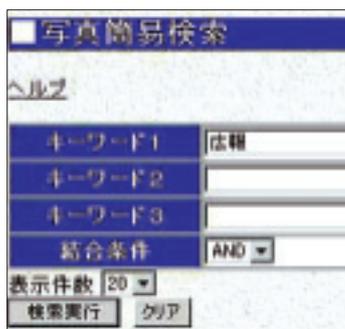
ちょっと昔の福井県

当館のホームページでは、県の広報写真のうち約400件を公開しています。現在、県民の皆様にご利用していただけるよう写真のデジタル化の作業を進めています。今回、これらの一部を紹介します。

■ ホームページからの検索方法を紹介します。



文書館ホームページの目録データベースをクリック。「写真」を選択してください。



検索ページのキーワードに広報と入れて、検索実行を押してください。



写真一覧から、写真番号をクリックすると、画像が出ます。これは昭和35年の県庁の写真です。

■ 所蔵写真を紹介します。

「東京オリンピック 国内聖火リレー 福井県編」

1964年(昭和39)東京オリンピックの聖火は、古代オリンピックの発祥の地であるギリシャで採火されました。聖火は、沖縄に到着し、終着地の東京国立競技場めざして国内聖火リレーが行われました。福井県では、9月28日から30日までの3日間、聖火リレーが行われ、2,392名の県民が参加しました。



京都府からの聖火が通る青葉ずい道(高浜町)



気比神宮に到着した聖火(敦賀市)



福井市体育館に到着した聖火(福井市)



聖火リレー(あわら市)

文書館企画展示・収蔵資料展示

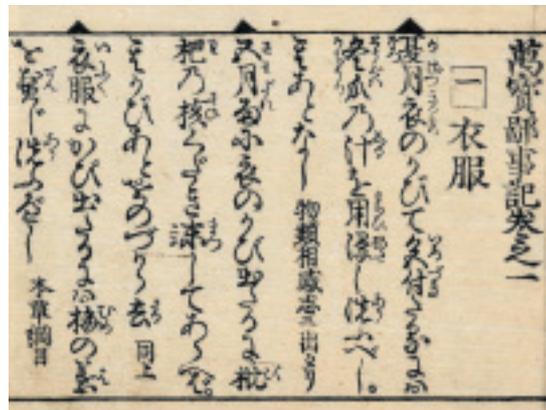
文書館では、7月25日～9月23日に「授業にでてくる ふくい^の史料」というテーマで企画展を開催しました。おかげさまで多くの方のご来館をいただきました。また、文書館が、収蔵している資料の中から数点ずつ月1回収蔵資料展示を行っています。今回は企画展示、前期収蔵資料展示をご紹介します。

収蔵資料展示

4月 「古文書に親しもう2」

中学生や高校生をはじめとして、広く県民のみなさまに古文書に親しんでいただくため、当館が収蔵している資料のうち、主に古文書講座で用いている福井県内に伝えられてきた古文書を展示しました。

万宝鄙事記巻之一
一 衣服
夏月衣のかびて色付たるにハ、
冬瓜の汁を用浸し洗ふべし、
其あとなし 物類相感志ニ出タリ
五月雨に衣のかび出たるに枇
杷の核くだき末してあらへば
其かびあとをのづから去 同上
衣服にかび出たるにハ梅の葉
を煎じ洗ふべし 本草綱目



▲ 桜井市兵衛家文書N0055-00896 (当館蔵)

5月 「だるま屋少女歌劇—プログラムとプロマイド—」

だるま屋少女歌劇に出演していた高田富氏が収集したプログラムとプロマイドを展示しました。



▲「だるま屋少女歌劇プロマイド」
高田富家文書A0502 (当館蔵)

6月 「むしばまれる資料」

収蔵資料の公文書・古文書などに残る虫喰い・かびなどの被害と、その対応方法、修復の一部を紹介しました。

7月 「御触から県報へ」

江戸時代の「御触^{おふれ}」と同様に書き写され回覧されていた明治初期の布令から、印刷されて広く配布される「県報」までの歩みを展示しました。



◀ 1874年(明治7)の敦賀県布令書
県庁各課および係りの印が改められ、1874年10月15日から新印が通用することを通知しています。
飯田広助家文書
G0024-00209 (当館寄託)

企画展示

「授業にでてくる ふくいの史料」 7月25日～9月23日

歴史の授業や教科書では、織田信長や豊臣秀吉、杉田玄白や由利公正がでてきます。しかし、学校ではそれらの人物に関する本物の史料を見ることができません。そこで、文書館では、収蔵史料と借用史料により、「授業にでてくるふくいの史料」を展示しました。



◀『信長日記』

これは、信長公記の諸本のうち、『原本信長記』（内閣文庫蔵）系統の比較的古い写本と考えられます。信長公記は、織田信長の経歴の正確な記録をめざした、信長側近の太田牛一の作です。

山内秋郎家文書X0142-00285～00291（当館蔵）

講演会

「教材で使う史料 学んでほしい史料」

開催日：8月31日（日）

講師：専修大学大学史料室主幹 青木 美智男 氏
高等学校の日本史教科書の執筆者として長く教科書にかかわっておられた立場から、「教科書に載る資料はどんなものか」などについて講演をしていただきました。



文書館こどもウィーク

企画展示の期間中の8月に、文書館こどもウィークを設け、中学生の夏休みの課題である「郷土新聞」作りのアドバイスをを行いました。多くの中学生が来館し、熱心に新聞作りを行いました。

中学生の感想より

- 僕は社会が苦手だったけれども、社会が苦手な僕にも郷土新聞を作ることができました。
- 学校からもらった文書館新聞を読んで文書館に来ました。いろいろな資料が見つかり、文書館にきたかいいが思ったと思いました。
- 新聞を作ることができ、社会科嫌いも、少し好きになったと思います。



新たに公開した古文書紹介！

前号紹介後に新たに公開した資料群は以下の通りです。（寄贈寄託文書は除く。）

- | | | |
|----------------------|----------------------|----------------------|
| ●C0119 三上傳兵衛家文書 坂井市 | ●D0054 高島長兵衛家文書 越前町 | ●E0010 畠山重左衛門家文書 越前市 |
| ●D0019 久守孫右衛門家文書 越前町 | ●D0055 両林家文書 越前町 | ●E0011 宇野名左衛門家文書 越前市 |
| ●D0028 宮本伝治郎家文書 越前町 | ●D0065 西応寺文書 越前町 | ●E0098 増田新左衛門家文書 越前市 |
| ●D0047 佐藤徳次郎家文書 越前町 | ●D0070 廣嶋一良家文書 福井市 | ●I0010 布川源兵衛家文書 大野市 |
| ●D0051 養泉寺文書 越前町 | ●E0006 服部孫右衛門家文書 越前市 | ●M0536 中山正弥家文書 敦賀市 |
| ●D0053 仲瀬武雄家文書 越前町 | ●E0008 山岸長三郎家文書 越前市 | |

お知らせ

講座のご案内

■ 県史講座

平成21年2月7日(土) 13:30~15:30

「朝倉孝景の戦国守護化の過程について」

講師：松原 信之氏(福井県史研究会会長)

会場：図書館多目的ホール

※県史講座は申込み不要です。

■ 文書館収蔵資料展示のご案内

平成20年11月「ちょっと昔の福井県4」

12月「古文書に親しもう」

平成21年 1月「幕末・明治の寺社名所案内」

2月「花押は語る－織田劔神社の中世文書」

3月「ちょっと昔の福井県5」

文書館の研修室をご利用ください。



- 文書館の研修室(40名定員)を会議や打ち合わせなどに利用できます。
- 使用する月の半年前の月から予約を受け付けます。詳細などお気軽に文書館にお問い合わせ下さい。
- インターネットからも研修室の予約ができます。



<http://www.shinsei.e-fukui.lg.jp/>

ご利用案内

■ 開館時間

午前9時から午後5時まで

■ 休館日

月曜日(休日は除く)

休日の翌日(土、日、休日は除く)

文書等点検期間(年間10日以内)

年末年始(12月28日~1月4日)

清掃整理日(12月以外の第4木曜日、休日の場合は翌日)

■ フレンドリーバス(無料)をご利用ください。

市内バス5番のりばから約30分

運行日：毎週月曜日、年末年始(12.29~1.3)を除く毎日



古文書にチャレンジ

何と読むでしょうか？



ヒントはこの絵。



※解答は下にあります。

編集後記

たより第12号をお届けします。

今号では、文書館での県民のみなさまの声をお届けしました。今後も親しみを持っていただくためにさまざまな取り組みを行っていきます。

文書館だより Fukui Prefectural Archives 第12号

平成20年10月31日発行

編集・発行／福井県文書館

〒918-8113 福井市下馬町51-11 電話 0776-33-8890 FAX 0776-33-8891

ホームページアドレス <http://www.archives.pref.fukui.jp>

電子メールアドレス bunshokan@pref.fukui.lg.jp

